

令和5年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 病院事業全体としての状況

令和5年度の病院事業は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に変更となったことで、総合水沢病院ではこれまで新型コロナ患者専用で確保していた病床を一般病床として再開するなど、通常診療体制への移行に対応してきました。また、より効率的で安全性の高い医療の提供を目的とした電子カルテシステムの導入を進め、衣川診療所では専用の遠隔診療車を活用したモバイルクリニックの取り組みを開始するなど、市立医療施設として各地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。

医師数については、常勤医師が総合水沢病院の内科、麻酔科で2人増、まごころ病院の内科で1人増となりましたが、会計年度任用職員医師が1人減となったため、全体で前年度から2人増の26人となりました。しかし、常勤医師は依然として不足しており、医科大学等からの医師招へいや医師奨学生の義務履行等の医師確保に力を注ぎ、医療提供体制の強化を図ると共に経営の健全・安定化を進める必要があります。

新市立病院建設については、令和5年6月に公表された「地域医療奥州市モデル」において「新医療センター」の整備が盛り込まれました。老朽化した総合水沢病院はこの「新医療センター」に移行することとなりますが、現行の「2病院・3診療所」体制の統合・再編を促すのではなく、地域の中で各市立医療施設が担うべき役割や機能を改めて明確化・最適化したうえで連携強化を進め、持続可能な医療施設として経営強化することが重要かつ喫緊の課題として、令和6年3月に策定した「公立病院経営強化プラン」により経営改善を図るとともに、引き続き医療体制の在り方について検討を進めていきます。

経営状況については、入院患者数は29,715人（前年度比1,806人増）、外来患者数（訪問看護を除く。）は113,868人（前年度比78人増）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で81.2人（前年度76.5人）、外来468.6人（前年度470.2人）となりました。一般病床利用率は38.3%で、前年度の36.1%から2.2ポイントの増となっています。

収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が2,527,120,564円、医業外収益が1,351,928,898円、訪問看護事業収益が56,162,577円、訪問看護事業外収益が36,841円、このほか特別利益が2,071,178円で、病院事業収益総計は3,937,320,058円となりました。

収益的収入のうち医業外収益は、新型コロナウイルス感染症関連補助金が終了又は減額となったことにより、前年度に比し950,122,663円の減となりました。

支出については、医業費用が4,025,068,754円、医業外費用が189,441,753円、訪問看護事業費用が78,163,010円、このほか特別損失が45,024,564円で、病院事業費用総額は4,337,698,081円となりました。

この結果、医業収支で1,497,948,190円の損失、経常収支で357,424,637円の損失とな

り、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は 400,378,023 円の損失となりました。

また、資本的収入及び支出(税込)については、収入は 238,902,000 円、支出は 406,816,752 円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は常勤医師が 2 人増、会計年度任用職員医師が 1 人減となり、全体としては前年度より 1 人増の 13 人となっています。入院患者数は 16,471 人で前年度と比較して 1,794 人 (12.2%) の増となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 52,433 人で前年度と比較して 2,015 人 (3.7%) の減となりました。訪問看護は、利用者数が 5,393 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 1,445,767,953 円、医業外収益が 783,525,461 円、訪問看護事業収益が 47,077,364 円、訪問看護事業外収益が 15,931 円、このほか特別利益が 1,127,400 円で、収益総額は 2,277,514,109 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 2,376,812,451 円、医業外費用が 118,217,823 円、訪問看護事業費用が 64,564,037 円、このほか特別損失が 16,842,561 円で、支出総額は 2,576,436,872 円となりました。

この結果、医業収支では 931,044,498 円の損失、経常収支では 283,207,602 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 298,922,763 円の純損失となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度より 1 人増の常勤医師 9 人となっています。入院患者数は 11,624 人で前年度と比較して 181 人 (1.5%) の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 39,892 人で前年度と比較して 1,842 人 (4.8%) の増となりました。訪問看護は、利用者数が 1,439 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 764,641,569 円、医業外収益が 218,850,012 円、訪問看護事業収益が 9,085,213 円、訪問看護事業外収益が 20,910 円、このほか特別利益が 928,363 円で、収益総額は 993,526,067 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 1,036,851,162 円、医業外費用が 34,182,268 円、訪問看護事業費用が 13,598,973 円、このほか特別損失が 27,434,420 円で、支出総額は 1,112,066,823 円となりました。

この結果、医業収支では 272,209,593 円の損失、経常収支では 92,034,699 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 118,540,756 円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数(外来診療は平成 28 年 5 月より再開、訪問看護は令和 3 年 3 月末に休止し令和 6 年 3 月末をもって廃止。)は

7,945人で前年度と比較して510人(6.9%)の増となりました。なお、入院については引き続き休止しています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が84,048,383円、医業外収益が120,426,272円で、収益総額は204,474,655円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が174,550,662円、医業外費用が14,324,687円、このほか特別損失が232,640円で、支出総額は189,107,989円となりました。

この結果、医業収支では90,502,279円の損失、経常収支では15,599,306円の利益となり、特別損益を含めた純損益では15,366,666円の純利益となりました。

(エ) 衣川診療所

医師数は前年度と同様の常勤医師2人となっています。入院患者数は1,620人で前年度と比較して193人(13.5%)の増となり、外来患者数は8,975人で前年度と比較して148人(1.7%)の増となりました。

収益的収入(税抜)については、医業収益が170,632,510円、医業外収益が154,753,193円で、収益総額は325,385,703円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が321,794,315円、医業外費用が18,572,736円、このほか特別損失が511,531円で、支出総額は340,878,582円となりました。

この結果、医業収支では151,161,805円の損失、経常収支では14,981,348円の損失となり、特別損益を含めた純損益では15,492,879円の純損失となりました。

(オ) 衣川歯科診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師1人となっています。外来患者数は4,623人で前年度と比較して407人(8.1%)の減となりました。

収益的収入(税抜)については、医業収益が49,635,525円、医業外収益が38,010,960円、このほか特別利益が15,415円で、収益総額は87,661,900円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が67,542,126円、医業外費用が2,904,653円、このほか特別損失が3,412円で、支出総額は70,450,191円となりました。

この結果、医業収支では17,906,601円の損失、経常収支では17,199,706円の利益となり、特別損益を含めた純損益では17,211,709円の純利益となりました。

(2) 経営指標に関する事項

令和5年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症の診療報酬上の特例措置や関連補助金が終了又は減額となったことによる影響が大きく、前年度比29.3ポイント減の91.7%となり、健全経営の水準とされる100%を下回りました。また、医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は、前年度比5.8ポイント減の57.6%で100%を大きく下回り、医業活動におい

でも赤字となっています。

病院の施設が有効に活用されているかを示す病床利用率は前年度比 2.2 ポイント増の 38.3%となりました。医師不足による病床の休床の影響もあり、依然として病床利用率は低く推移しているため、適切な病床数を維持しながら利用率向上に向け引き続き医師確保に努めてまいります。

<経営指標の推移>

ア 経常収支比率【(経常収益／経常費用) ×100】

	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1
総合水沢病院	88.9%	134.6%	129.8%	88.3%	88.3%
まごころ病院	91.5%	97.6%	92.7%	91.7%	93.6%
前沢診療所	108.3%	110.6%	102.0%	94.2%	103.5%
衣川診療所	95.6%	100.7%	95.3%	97.3%	94.3%
衣川歯科診療所	124.4%	120.7%	95.1%	102.5%	99.6%
医療局全体	91.7%	121.0%	115.7%	90.5%	91.0%

イ 修正医業収支比率【(医業収益－他会計負担金)／(医業費用) ×100】

	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1
総合水沢病院	55.0%	65.3%	56.3%	52.1%	62.9%
まごころ病院	70.7%	70.3%	68.8%	68.8%	72.6%
前沢診療所	40.7%	38.5%	33.4%	30.4%	29.2%
衣川診療所	49.0%	47.8%	47.8%	48.4%	50.4%
衣川歯科診療所	56.2%	54.3%	49.5%	51.7%	52.2%
医療局全体	57.6%	63.4%	56.9%	54.4%	61.8%

ウ 病床利用率【(年延入院患者数／年延病床数) ×100】

	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1
総合水沢病院	31.0%	27.7%	33.0%	35.9%	50.5%
まごころ病院	66.2%	67.4%	66.6%	64.7%	71.0%
前沢診療所	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)
衣川診療所	23.3%	20.6%	24.3%	22.8%	27.3%
衣川歯科診療所	—	—	—	—	—
医療局全体	38.3%	36.1%	39.8%	41.3%	53.0%

※病床利用率は感染症病床を除く一般病床利用率を示す。